

## カビによる皮膚炎

門別診療所 富 樫 雄 三

今回は皮膚病のひとつについてお話をします。馬の体を見ていて丸く毛が抜けている（図1）ことに気づいたことはありませんか。全身状態に大きな異常がなければ、最も疑われるのはカビによる皮膚病です。もともとは皮膚にあった小さな傷にカビが感染するのがはじまりで、初期はじんましんのような見ため（大きき5cmまでの発疹、触るとへこむくらいの硬さ、脱毛なし）をしています。感染が進むとフケのようなものがたくさん出てきて毛が抜けます。放置していると脱毛しているところが少しずつ広がっていきます。かゆみの強さは馬によってまちまちです。

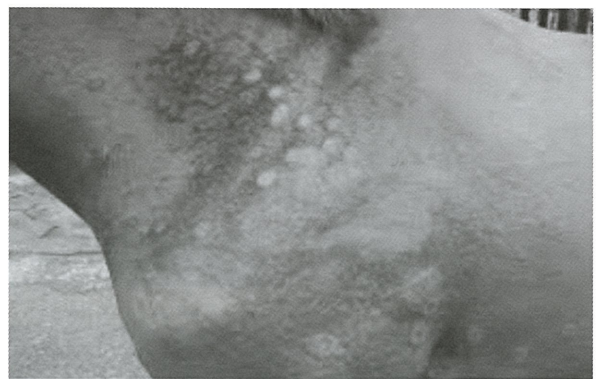
この皮膚病は予後は非常によく、健康な馬であるなら無処置でも6～8週で自然に治っていくといわれています。しかし、この病気は伝播力が非常に強く他の馬に次々と感染していきます。また一般的ではないですが、人にも感染するため早めの対策が推奨されています。他の皮膚病を除外する上でも皮膚の病変を見つけたら獣医師までご相談ください。

この病気への対策は大きく分けて2つあります。1つめは他の馬への感染を防ぐことです。頭絡、引き手、馬服などの馬具だけでなく手袋やブラシなどの馬の体に触れるものは感染馬用と他の馬用に分けるのが重要です。感染馬はできれば他の馬から離れたところで飼育し、扱うのも最後にするのがよいです。感染馬から出る毛やフケは感染源であるので飛び散らないように捨てるのがよいでしょう。

2つめは感染馬の処置です。抗カビ剤の入っ

たシャンプーやリンスで洗うことが効果的です。洗った後に抗カビ剤の軟膏などを塗ることを勧めている報告もあります。手軽な方法としては抗カビ効果のある消毒剤（図2）を希釈してスプレーすることです。短時間かつ馬房内でできる方法なのでおすすめです。

治療が成功して症状が落ち着くのは比較的早いですが、治療から2週間ほどは伝播力があるので引き続き他の馬から離して飼育するのがよいでしょう。感染馬がいた馬房も感染源が多く存在するのでしっかりと洗浄と消毒をしてください。

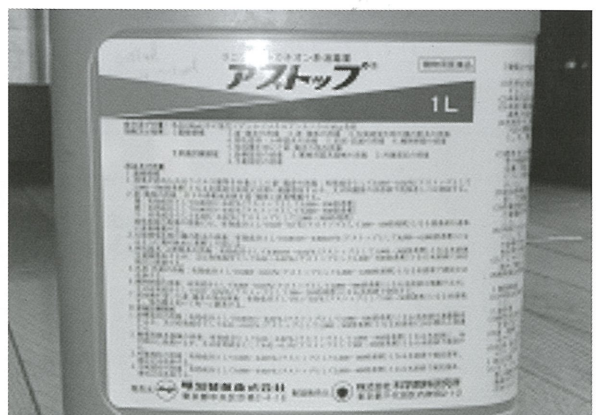


↑ 図1：典型的な病変

<https://towcester-vets.co.uk/2017/02/all-you-need-to-know-about-ringworm/>

↓ 図2：カビに効く消毒薬の一例

写真 <https://nobimamah.exblog.jp/6350026/>



真菌の消毒には、有効成分として0.05～0.1%（アストップ200として400～200倍希釈）となる温湯液

添付文書の拡大 Meiji SeikaファルマのHPより